

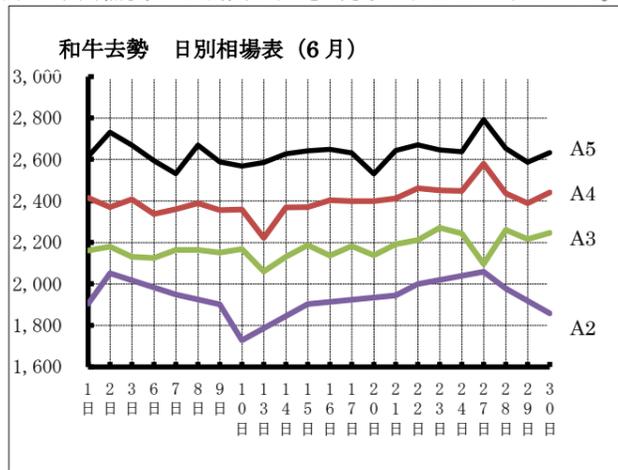
# 月刊しばうら

## 2022年7月号

### 牛肉営業部

#### <6月の相場動向>

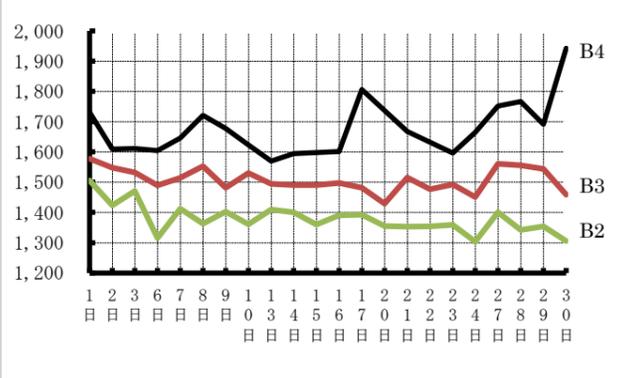
新型コロナウイルスの感染流行に伴う行動制限措置が解除され3ヵ月たつものの、新規感染者数は高止まりの状況にあり、さらに、ロシアによるウクライナ侵攻、円安の影響を受けた食品、原油価格等の高騰が消費意欲の減退に拍車をかけたため、牛肉需要は非常に厳しい状況にある。また、1日当たりの外国人新規入国者の上限が2万人に緩和されたものの、インバウンド需要の回復からは程遠く、低調期の6月の牛肉需要から展開が大きく変わることはなかった。



#### 和牛去勢 (月平均)

	加重平	前年同月比	前月比
A5	2,631円	-45円 98.3%	19円 100.7%
A4	2,397円	-2円 99.9%	29円 101.2%
A3	2,184円	31円 101.4%	31円 101.4%
A2	1,937円	12円 100.6%	-16円 99.2%

#### 交雑去勢 日別相場表 (6月)



#### 交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,654円	-120円 93.2%	-113円 93.6%
B3	1,510円	-68円 95.7%	-99円 93.8%
B2	1,377円	-48円 96.6%	-99円 93.3%

#### 乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,068円	-19円 98.3%	-62円 94.5%

#### <6・7月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、5月の輸入量は前年同月比7.7%減の4万5,769tで、うちチルドは9.2%減の2万508t、フローゼンは前年同月比6.7%減の2万5,261tとなった。円安や入船遅延などの影響を受け、豪州産は1割減、米国産は2割減となった一方、チルドはニュージーランド産、フローゼンではカナダ産が数量を増やした。

農畜産業振興機構によると6月の輸入通関予測は6.7%減の4万8,700t、7月は5.4%減の4万9,000tで予測している。

輸入牛肉通関量	5月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,618	8,217 104.9%
	米国	9,509	11,710 81.2%
	その他	2,381	2,655 89.7%
	合計	20,508	22,582 90.8%
フローゼン	豪州	9,705	11,983 81.0%
	米国	6,948	8,764 79.3%
	その他	8,604	6,337 135.8%
	合計	25,261	27,084 93.3%

出典：食肉速報 単位：t

#### <7月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による7月の出荷予測頭数は、全体で前年比100.9%の9万3,000頭で、品種別にみると、和牛は1.7%減の4万4,300頭、交雑種は7.5%増の2万800頭、乳用種は0.8%増の2万6,400頭と予測している。

東京食肉市場の7月のと畜頭数は7,700頭を予定しています。

#### <7月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの新規感染者数は7月に入り増加傾向にあり、再び行動制限が強化されるか注視していく必要がある。

長引くロシアによるウクライナ侵攻や円安などの影響による食品価格や原油価格の高騰を受け、国内の消費マインドは冷めた状況が続くと考えられるため、牛肉需要を取り巻く環境はますます厳しい状況となる見込みである。

和牛については、冷凍保管事業や輸出需要等により下支えされた価格展開が継続された。しかし、輸出実績が4月度、5月度共に前年度割れをし、また冷凍保管事業の終了が近づきつつあり、先行きが見通せない。

一方、年々盛り上がり方が縮小しつつあるとはいえ、盆需要に向けた価格の維持が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600~2,800	B4	1,650~1,850
A4	2,450~2,550	B3	1,500~1,600
A3	2,250~2,350	B2	1,300~1,400
A2	2,050~2,150		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,050~1,100		

### 豚肉営業部

5月の全国と畜頭数は、前年同月比0.9%増の132万1,523頭。また、5月の豚肉通関数量は7万7,484t（前年同月比8.7%増）と前年同月から増加。

内訳はチルドが2万6,808t（22.4%減）と減少した一方、フローゼンは5万676t（38.0%増）と大幅に増加した。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
比	99%	109%	87%	111%	99%	100%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

5月豚肉通関実績					
アメリカ	14,226	90.8%	デンマーク	8,627	138.4%
カナダ	10,349	59.7%	スペイン	14,974	201.6%
メキシコ	2,216	144.6%	メキシコ	8,946	114.8%
			アメリカ	4,580	109.4%
			カナダ	3,063	112.8%
合計	26,808	77.6%		50,676	138.0%

単位：t

#### <6月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	58,100	646	630	624
2日	61,000	655	640	572
3日	53,500	660	649	796
6日	58,800	658	644	579
7日	65,600	658	641	995
8日	57,100	663	632	569
9日	60,900	648	634	605
10日	50,300	635	610	863
平均	58,163/日			700/日

6月に入り出荷頭数は更なる減少傾向となった。6万頭を割り込む日も増え、相場は上昇傾向となった。

輸入物の供給は依然として不安定な状況が続き、価格が高騰したことで、国産物の需要は強い傾向が続いた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	59,300	657	601	598
14日	60,200	626	606	793
15日	56,400	648	621	547
16日	62,900	635	611	535
17日	56,600	625	612	930
18日	59,400	650	627	593
19日	63,300	653	647	931
平均	59,729/日			704/日

全国的に出荷頭数の減少傾向は続き、相場は格差なく上中ともに600円を超える高値の展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	57,000	684	670	546
23日	60,400	687	676	707
24日	58,300	679	662	921
27日	63,500	696	670	547
28日	60,300	704	692	878
29日	60,500	705	690	558
30日	61,100	685	615	576
平均	60,157/日			676/日

出荷頭数は引き続き低調に推移した。輸入物の供給不安定や相場高、為替などの影響が強まる中、国産物の需要は強く、相場は更に上昇傾向で700円を超える展開となった。

#### <7月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による7月の肉豚出荷予測では、前年並みの131万3,000頭（前年同月比100.0%）と予測している。当市場の7月集荷予定頭数は1万5,000頭、1日あたりでは約750頭を見込んでいる。

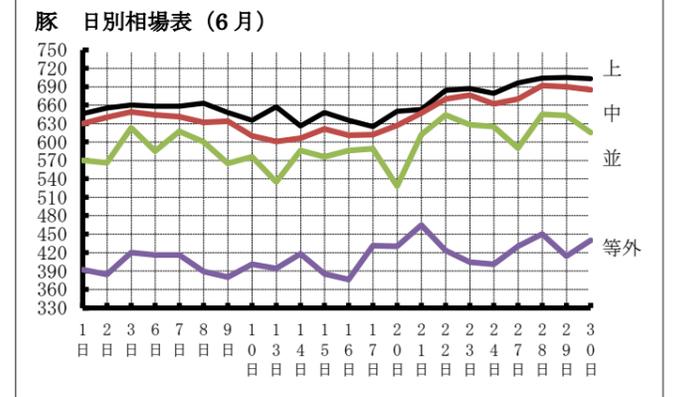
農畜産業振興機構によると7月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万5,500t（前年同月比101.2%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,000t（同93.3%）、冷凍輸入量は4万2,500トン（同108.3%）と予測。

冷蔵品輸入量は北米の継続的な需要増加や為替相場の変動による現地価格の高騰から前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、外食需要の回復が見込まれていることに加え、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外食需要の減少やアジア諸国を中心とした旺盛な買い付けに伴う、現地価格の高騰等の影響を受けていた前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年7月は目立ったイベントがなく、需要の低調期に入ることに加え、中旬以降は夏休みで学校給食が中断することで更に動きは鈍くなる。今年はコロナ禍による行動制限のない夏休みとなることが予想され、外食需要の回復に期待が高まるが、全国的に新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあり先行きの見通せない状況である。供給面は、猛暑による出荷頭数減少や上物割合の低下など、豚の成育への悪影響が懸念される。今年は豚熱や一部地域における疾病の発生の影響を受け、より一層出荷頭数が落ち込む可能性があり、相場へ大きく影響を与えることが懸念される。

以上のことから当市場の上物平均価格は720円前後、中物平均価格700円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**